1937(昭和 12)年の新聞記事

1月26日 東京朝日新聞



2月4日 東京朝日新聞





4月18日 東京朝日新聞





デイラックの書に比べて本書は には、それの手引の役目を果す さらいふ意味で専門の學徒以外 分量も多く(菊版四三六頁)また ものが壁まれる。 くては入り難いとも思はれる。 多少の豫備知識をもつた上でな 於て、甚だ優れたものであるこ とは云ふ迄もないがそれだけに かたり深く立ち入つてるる貼に 電子力學に關する種々の問題に 意的である點に於て、同ほまた た。デイラックの著書はその創 は、我々の喜びとする處であつ 和十一年、岩波書店)されたこと 思考を明かにするのを主とした點 したと断つてある。

ルゲの思考を酷潔に説明して量子 シュレーデインガー、ハイゼンベ 適かに簡易である。その主要な部 方法を説明したものとなってるる が、それ以前にドウ・ブローイー、 るために簡便な良書として推す 頁、定價金二圓 を學び、且つその物理意味を知 初學者が量子力學の數學的形式

三月、内田老纏圃、菊版一八九三月、内田老纏圃、菊版一八九

ぜしめる部分も多いと思はれるがの初學者にはやく説明の不足を感 エルセン科學及び知的自由研究所 で、同國のクリスチアン・ミッチ ともかく能く要點を捉んでゐると に在るが、ドイッのボルンの指導 云つてよい。 本書の原著者はノルウエーの人

純

る。倘ほ本書は量子力學の基礎的 最も著しく現はれるといふのであ て古典理論と量子力學との對照が 者の意向では、この種の問題に於 應用を本書中にも能く説明して観 な問題、即ち簡単な多體問題への 行つたことがあり、從つてかやう でヘリウム原子等の理論的研究を



4月28日 読売新聞



5月10日 東京朝日新聞



6月25日 東京日日新聞



る。それ程速方の重要などといふ

のなかにはいろくな種類のも のがある。それらの有様をだん

間に渡したところのものなのであ

雕にある。だから現に我々の眼に は實に五億光年といふ贈くべき取

達する光はその星雲からは五億年

らうかと、これを映画する人々も ものが我々人間と何の開はりがあ 日軍連続で探られる最遠方の軍室

知るに過ぎない有様である。荀く

天下の形勢を語るにはもつと眼

ブル著 相田八之 助譯

宇宙のなかには實に廣大な世界 あるであらうが、さらいふ迷りを 石 純

が擴がつてゐる。我々の太陽系の 間りにはたくさんの星の集まつて ある銀河系が存在し、更にそれを 晴らすには、先つ本書を読んだが い」と云ふとになる。

超えて速方には無数の昼雲が散布

文學の主要だ劉潔であつたが、今 されてゐる。昔は太陽系だけが天

から見ればそれは恰も一郷一村を

られるであり しても、そこ

アメリカのウィ ハツブル博士は 本書の原着

れ以上のものを望むとはできた は赤方偏倚、相對作理論とする位、相對律の如き語は、嚴密に 源文は質賞で、しかもよくこと る一般向きな書物として現在に 者が護演したものを纏めたもの いと思はれる。相田八之助氏 かことができょう。(但し赤色 本書はエール大學のシリマン

ルソン山天文意

にあつて、有

りはしない。更に進んでは我々 うい

全星の伸間である限り、

そ るのである。我々の太陽系も言 またこの廣大な全宇宙がどんた 於てどんな地位を占めるもので 人間の住んである地球が宇宙に て深く研究しなければ到底わか 機道をもつてあるかと云ふやう な事柄は、かやうな星雲につい れがどうして造られて來たか、 あるかとい 發見にかくる「速度距離の關係」、 と云つてよいであらう。殊にその

地球から遠ざかつてゆくといふ事 る。勿論、その解決は今日に於てな 異味をもつて注目せられ、宇宙 即も連方の屋雲ほど大きな速さで ほ困難を伴ふだけに、將來の理論 の異常な義展を豫約したものであ 實は、近時の天文學に於て非常な 進展が一層得望されてゐるので

(菊版二四九頁、

見劣りしたい程の の挿圖も鮮明で、原書に比して 出來である。

则二十趋)

だん詳しく調べてゆくと、それっとに於て世界に並ぶものを見たい

人であり、星霊に闘する知識の深 議月を費して星雲観測に從事した

9月14日 東京朝日新聞



10月18日 東京新聞





11月3日 東京朝日新聞

トの東田湖高島のそう に一酸に出了をつくり に一酸に出了をつくり 出して歌歌に図るとと はできなかったと。 ドイツが軍事的に 優勢を特値しなが ら、なほ収載の苦杯	3	公中総票協定担で有公中総票協定担で有公中総票の信息を教よのに 表示フリッツ・ヘーバーは でドイツの化単は 大いに興かつて力があったけれど、ファウス
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	百年の大計	を答めたのは、もはを答めたのは、もは を関内に最後の兵員 を見出したからである。 と記述な深刻な状態 と記述な深刻な状態
及がことで際によって の形型に取て際心にも ・事意に用つて文部 をの在外研究員を関係の手者代数 をの在外研究員を関係した。 をのでが、の手者代数 をので、の手者代数	原計純	それと回縁にいか たる都無冷離に際しても、文化析业を出てる。文化的数響 やまた決して一朝一 もまた決して一朝一 ちまた決して一朝一 できないからである。
してるる。しかもその 関係数目の世の大のな 形よなら、かくして関 形を持つら、かくして関 が自年の大部を失する 参属を甘んじて受容するのに耐へられないで あのに耐へられないで	止して經濟的班立を飲	るからである。之は實 とつて助々しい問題で とつて助々しい問題で とつて助々しい問題で とつて助々しい問題で なくとも総理にからない。即 なくとも総理にからない。即 なく世界に同ない。 の なくとも、 の の の の の の の の の の の の の の の の の の の



ならばこれこそ國家の深憂に属さ べきものである。 のであって、若しさうでなかった 歩みを續けるためにそれは必要な でなければならないことは確かで るであらうと推せられるが、そこ 必ずしも十分に科學的な考察では ち來す所以であるとするのはまた るが、之等のみが我軍の勝利を持 我が將兵の武勇的行為が傳へられ ある。少なくとも我が國が健全な に擡頭すべきものが質の科學思想 情にも恐らく種々の難化が現はれ ある。毎日の新聞紙上には頻りに あり得ない。事變後に於て我が國 更に軍事に開してもまた同様で 類與傳生、



東京朝日新聞 12月10日



うな感があるが、気架に置み斃し

や城壁には抗日、郷日の文句が大書して 国々たる町館である、赤化思想を多分に 以み、我が軍は太谷附近を守備してるに 開 郎 に 文コ 「從軍能與家」 中村直人

り、之等は博士の頭のなかに何よ科學未來記に關するものもあれ」とか「四十世紀頃」とかい 足りる。 が考へられてゐるかを物語るに であらら。また「二百年後の元日本の部分が存外に有益

た。日本でも西洋でも現代性のない。日 へいものが破壊しよう響がない。日 へいものが破壊しよう響がない。日 よりも新しい意匠のものゝ方を好。 むといふ記事を大量所白いと思っ しく要領よく記してある。 般外属人でも、従来の型

べき 間い頭に廻ら ものと云 4 が決 変 断機と本は それだけの観異があるのだと思は ものであるにしても、自分は一向の書物は影響品を提供するやうな 出すことについていろしな皮の なくても、一箇の日本人であれば 無にしないと云ふっ や態度を含はれるのに動して、と は必要なのだから、それらに手を ----配さを述べ、あれもこれもと云ふ やうに見える際山の仕事が自分に 専門家でなくても學者で 實際に限部博士は固苦しい學 を受かれてあるが、一般の楽人 の自動車に関する諸関盟 の自動車に関する諸関盟

明 日本人の電気が近の型を膨く、ラ と 終の動脈では、エルマンを眠り、 と 終の動脈では、エルマンを眠り、 | 世であることもわかる。 **大十畝類の瓢箪や二類のスケッチが覗はれる。又本書に搬入せられ** で及ぶのを見ると、既士が人態以 チオや書音観から聴診器の音にま 上のよい耳をもつてゐられること

苦心の日本監味や東洋電味の意匠。 苦心の日本監味や東洋電味の意匠。 も合なしであらう。 質用性の測足がまづ第一である。 うはこまる。工業も監察と同じく よく推察できる。安からう聴から 合用三半の著者の思ひもさこそと でこの安物の日本工会品に接して であることを知る。世界の各都市

は 來たといよ、腹側んで養んで養ひは 來たといよ、腹側んで養んで養ひは 來たといよ、腹側んで養んで養ひ の新譚は企でられたものといよ、とて、その缺陷を補よつもりでことが、 京橋區京橋三ノ四日本許論社) に十分な配縁が爲されず、抽象的 事多かつたとも云つてある。 魔揚な気持で書いた作品をフラ ▲花の位置、林芙美子書) テキストはドイッ間大衆版を採用 なほ河上博士の名譯にも勿論負ふ したと(菊利八二三頁四面五十段

てとな に國でもの 質に問い 2 である。かくて教授の思想は、最いである。かくて教授の思想は、最いないなどの流れを汲む文化主義を確力主義ではなく、深くドイ るもの、否即砂的なるものへの合 後に於ては水遊なるもの。離れな 一をすら念願としてあられる。 店

形線流 著 隈 原 -純 石

べての調査が日本丁齢品の海外輸 廣川群、打。巻烏菁帝兵按數。 寂思一散。身已嘎心里亦爲。力先紹思一散。身已嘎心里亦爲。力先紹認。我,人只落血蒙手。楸、國空頃逐。毅,人只落血蒙手。楸、國空頃 **戛魚雕秋端,江。**

限界と題する本邦

に復製した元明間院構の一例な 職禍を載せ、排圖には木版色摺 氏の修學院雕宮の庭園に就ての 氏の筑陽の書の考證、外山英管

忽然收。只能古渡鹭;桃蝶;。其趣。十廟以臣群;再起;。一年王氣齊溪煙雨秣陵秋。獨鼓撃整何處 天。不,知之子竟無数。 **於降旗出。石窟。夜半夏愁湖鬼** 古彫刻に関する研究、大串純夫 華

「資本論」の譚はわが順における 資本論 第一卷 第一分册 一郎氏の一木造の 部省鑑食官丸犀彩 本號の論説に文

つの屋、イデオロギーと単、個人 の 職権がかから 寛に見 か の職権がかから 立身から 寛に見 か の職権がかから 立身から 寛に見 けたる點を補ふものとし 文化の具體的なる分析と そ、我國の哲學に最**る**飲

女化

の鬱硬を「文化哲學の諸問題」と教授はここに極められたいくつか

名づけられた。そのことからして

高

坂

正

の内容も漆工画に開するものがそ **資,桃花扇** / 白國根,

南海 宮崎

宣政

もの、何等研究的著述でなく意識をなし、更に占筮運用を説いたる事で、本書はまづ易種の全文解

要 夢金陵磯殿原。の, 韓末樹帶。 群陽。 北來臺鼓無 端下。南渓鷺 群陽。 北來臺鼓無 端下。南渓鷺

ピ大に得る盛めらうと思はれる 響とは全く選を異にし熟護玩味せ

遇してゐるが、世間に流布する俗

(四六判六〇四頁四圓五十段、

芝

公園七號地大東出版社)

瞭,。臺南蕭蕭吹,御牀,。

書を上梓したもので、アメリカ及 で歐洲各國の工藝界の専情が詳細 に記述してある。 でその専門は添工館のよし、本物 は東京美術器权助教授

事、服用とは之を 占窓に運用す の根據とは易經本文の ▲易の根據と應用 本版界 日本輸出工薬聯合會) 品

土は患者や原門家館することの領

歌米既行をされた際の記事が数 士である。本書の初には一昨年 者仲間には珍らしい多藝多才の 篇載せられてゐるが の文章などまことに自

んな歌歌のものもみな安物はかり 輸出されてゐる日本の丁歌品はど が置んでも極めて有気であり、に何等かの點で関係をもつ我々に何等かの點で関係をもつ我々指針となること勿論だが、工藝談方面の営業者にはよい今後の 出といふことの上になされてをる 本書を設むと、現今海外に 且つ興味深いものがある。

唯 られてある、四六四倍判一册金水九兵衛作の蒔繪見台等が収め 陽の籌景圏、加賀蒔艪の名家灣敷寄者間に知られた山月圏、筑 た鎌倉時代の印搬地獄草紙煮签る駒淵明闢の外、玻曜版となし 標識型の減重窓点の液品と 野の撒なる琴棋潜載陽屏風、長殘鰈、松榮の流と見るべき古狩 一の完葬として散意を拂はれて

なほ

圓四十錢、

門

本民の出産で同本確認等の の関重等。最近の「非常時夜話」 かゝる「西部山居健康」及び「新 かゝる「西部山居健康」及び「新 かった」で、昭和七年以降執筆に かった。「西部山居健康」及び「新 かった」で、昭和七年以降執筆に な。老來とかく昔を語れるもの多 席と芝居と」 すべて二十八篇を収 五九頁二圓、日本橋通

-月 **-** ⊟ 新聞名不明

おける天文學の麒獅的な邀歩

示するものとして待たれてる

るパロマー山上に据えつける 、六、二二六フィートの高さ 遠くバサデナに輸送されたと

ある。爾後その研磨に五年を

れて、その製造の行はれたこ

ヨークのコーニング硝子會社

こては、アメリカのカリフォル チ反射望遠鏡の鏡の鏡音が完 大學において設計せる二〇〇

學界において注目すべき事質 識められてゐる。 における優れた業績として一

変であることから見てこれは

られた。盤の病理學的研究

賞を授與せられた、カル・ア

学面優が利から変せられるかといい。 もので、微柔をれいいて膨脹がある。 もので、微柔をれいいて膨脹が大いつれも能が伸出るることは出来 ない。それといふのもなほ事態が ない。それといふのもなほ事態が ない。それといふのもなほ事態が ない。それといふのもなほ事態が ない。それといふのもなほ事態が ない。それといふのもなほ事態が ない。それといふのもなほ事態が ない。それといふのもなほ事態が ない。とは唯年度の人 である、このことは確年度の人 を対応にないる。	トール の記さまで到明することを理測したりは興味る多様で ある。 記録にはける宇宙観の領さを観 がある。記録にはける宇宙観の領さを観 響することをそく行はれて大多の デメリカのカリフォルニア大學の ミリカン機学はこのカリフォルニア大學の ミリカン機学はこの方法によって を観し、記述を提展したサン・ アントニオ境方では110七〇ス ートルの高さで宇宙観の強さみ被 域ずることを手掛した。	は できるとようであります。 大學の本語を表していては、よるとと、大學のなど、力が美一般の表したところのものは、大月十九日に たところのものは、大月十九日に たたこころのものは、大月十九日に たたってに たたって にわたって にかたって にかたって にかたって にかたって にからかる人々に 機等を として 大い に いって に できり、 ままして に まいては よる 前 と できり、 と に といては、 よる 日 に といては、 よる 日 に といては、 よる 日 に といては、 よる 日 に たい できり、 を に に たいて と ない に が で ない に で が に かまり ない に に ないて に といて に といて に し とい と に に といて まず の かン アリッチ 大 卑 教 を で る に に は マ マ フ に に は マ マ フ で まり、 た に と つ で 大 と 音 と に た と が た に に つ て 非 常 に かまり まり ま
		大學の太陽智神學部別所長として 理學博士 石 理學博士 石 理學博士 石 建宗行戦の東交際者であるし、同 総工学イカナル太陽智神學部別所長として であり、またインドのロイク博士 にあって、太陽部別の東交際者であるし、同 はコダイカナル太陽智學の配別者としてかつマリー々 にあって、太陽部別の甲延醇者を にたって、大陽部別の甲延醇者を にたって、大陽部別の甲延醇士 にたった、大陽・一、大陽・一、大田 にたった。 はこの人々に続し得たたけで、でに はるが出来なかったら、これが上め に配信するよりたかになって、本間 に関いて大田 に関いて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にはいて大田 にいいいて大田 にいいいて大田 にいいいて大田 にいいいて大田 にいいいて大田 にいいいて大田 にいいいて大田 にいいいて大田 にいいい にいいいでしたい にいい にいいい にいいい にいい にいいい にいいい にいいい にいい
		原
		関の自動が開かっ、能にあたるので 何らか太陽における現象と漫画する るのとみ系統におりる現象と漫画する たの間時機能を行った結果は、 たるとなははと維められた。 たの間時機能を行った結果は、 をもつとは限いる。 たが成に五十四日の理典を行する がは調明されないあその後の観測 によれば、おそうなからな影性、 をもつとは限いする によれば、おそうなからない。 ただ何談に五十四日の理典を行する をもつとは限いする によれば、おそうなからない。 によれば、おそうなからない。 によれば、おそうなからない。 によれば、おそうなからない。 によれば、おそうなからない。 によれば、おそうなからない。 によれば、おそうなからない。 によれば、おそうなからない。 によれば、おそうなからない。 によれば、おそうなからない。 によれば、おそうなからない。 によれば、おそうなからない。 によれば、おそうなからない。 にないまないない。 なもっとは限かする がなられる。 者とはいる。 をもったが、 が、かもったが、 が、かもったが、 が、からないが、 は、かやうな解析では、 が、からないが、 で、かやうな解析では、 が、からないでは、 で、かからないが、 で、かからないが、 で、かからないが、 で、かからないが、 で、かからないが、 で、かからないが、 で、かからないが、 で、かからないが、 で、かからないが、 で、かからないが、 で、かからないが、 で、かからないが、 で、かからないが、 で、かからないが、 で、かからないが、 で、かかんに行はれてるる ないが、 で、 かられば、 ないでは、 で、 ないでは、 で、 かられる。 ないが、 で、 ないが、 で、 ないが、 で、 ないが、 で、 ないが、 で、 ないが、 に、 ないが、 に、 ないが、 に、 ないが、 ないが、 に、 ないが、 ないで、 ないが、 ないが、 ないで、 ないが、 ないないないで、 ないが、

理學博士 石 原界 [中]

あるが、一九一二年に地上五キ 行って、はじめて宇宙線を験見 は敝次蔵少したのに反し、そ のであった。最初の目的は地 プルック大學 の物理學教授 柳するにいたつたのである。 ンなどの人々によって研究さ その後コールヘルスター、ミ るのを戦見し、かつその作用 上の高さに罪るとかへつて増 を知らうとするのにあったがかはらず、電子は常に陰電線を行し、どれほどの高さまでおよ、来、すでに四十年を經過するにか 放射物質から数する放射線の にこれが四キロメートルほど ての起脱が地球以外の宇宙空 ことを知り、高處網と名づけ か高處において減ずることを ス博士とともにノーベル物 在するとして、これを宇宙 他種の起原による放射線で るしく大きいのを見て、これ して著へられてゐた。ところが近、いづれも物電脱子の晄常が現時に、・テール開士およびオーストリー(戦を育する物粒子は存在しないと一然のことと思ばれるが、これらは、國文監事研究所長サー・ヘンリー 縦ぜられたのであったが、アンダーとである。この質験を行ふために、このうも思い質は佐々木座照像は | 神殿は板本的な原院をもつとさへ てゐるかは、悲らく無際に総るほ、彰は二月の郷舎度悪定されたが、れが管理しない鳴りにおいてこの に添瀝に世界各國において行はれ わみ圃の常園悪子殿における表 においては電子に動して貧のエネ 脱子の秘密をさらに深く邀売する 心臓機能に聴する理論によって貧いたイギリスのディラックの電子論 もつことを示してゐるのである。 ーサを帰去に爽へられた。ともにたイギリスのディラックの電子論 このテイラックの理論に光輝を與してアメリカのカリフォルニア大 ルギーをもつ状態があらはれ、こ ために、殿子核密懸の電極がいか 名である。 たイギリスのアイラックの電子識しもつことを示してあるのである。「どを騒ぜこ蛙へられた。ともこごろ量子力學に慕いて軽づくられ」おいてもつとも根本的な重要性をのグラーッ大學教授オットー・レビの量子力學に慕いて てゐたので、これと點解的な時電一千の難見者が表彰せられたのは當っまた醫學賞はイギリスのロンドン 脱子の構成要素として知られて以一アック博士に、また物化學賞がこ。純事賞を物理學的理論によつて解 ーツンの開電子の競見はかへつて一用ひられるもつとも行力な器機と する微粒子としてのみ観測せられ ることである。かつて電子が物質 の中に、はじめて陽電子を發見せ 年に宇宙線の飛跡を撮影せる部队一で極めて興味あるものである。 ン博士の功績は、さきに一九三二 心せる人である。このアンダーソ 士の下にあつて宇宙線の研究に報 場所における空孔であるとして、ンダーソン博士もまたミリカン博 エネルギーの陰電子に充たされた このことは質に電子の理論にとつ 一昨年度のノーベル物理學賞か

られたこと、相像つて、次に腸症、化學師物理學の郷かしい解來を釈るプランスのジョリオ夫態に興心、化學師物理學の郷かしい解來を釈え 中性を敬見せるイギリスのチャイ れと朦朧して人工放射能を發見せ、影しようとする近時のいはゆる物

一學のローレンス博士の対象したサー工数生に関する質驗的研究に對し および吉田宮三學士の貯臓療の人

みごとに解標せしめるやうにした がドイツのベルリン大學教授アバ の強電解質溶液の理論や分子理 イ博士に授與せられたのは同博士 論の重要性を示するのであつて、 かく喜ばしいことである。 一般には従来知られてゐる物化學 なほ昨年度のノーマル物化學賞

もこれがぞく理化學研究所に認識してクロトロンと称するものはすで せられ、なほ大阪帝大においても

純

目下建造中であるといふのはとも

[F]

應用方面における大権設として「ジョンの一般放送を開始し、好成 理學博士

純

學げるべきはアメリカのコロラド 織ををごめたことも特能に値する。倉金之助博士の『自然科學者の任 か、それ以上に根本的に重大なの一つある知識偏重策害論に動する痛 は科學的研究の態度である。この て、みるべきものはもとより多い 個々の科學的研究の成果におい 烈な反駁を示したものであって、 國においてしきりにとなべられつ もその根本においては、近時わか 務」をあげればならない。同者と

最大の人工湖(長な)一五マイル

日子を費して完成し、そこに世界

河に設けられたボールダー・ダム (高さ二一九メートル)が八年の

ものである。

幅四九マイル)を出現せしめ、下

流地方の濫漑がはじめられたこと。ことは現地において何かしら社會現に公職に連なってある。しかも 的危機が切迫し、世界のいたると するにあたって、その間に愛燃た あることにより、質に當面のもつ る覺悟をもつて進むことの必要で ころにおいてしきりに暗雲の往來 めるにいたった社會事業に勤して をして、敢てかやうな言を養せし 本來温厚篤實な財博士の如き人々 われしは一層深く考慮しないわ

るに足りる。われしの耳目をも つとも著るしく刺戦したものとしの自然科學者は社會科學者と相提 やうになったのはまた意を強うす 着によって指導的説諭の行はれる てゐる中に、近ごろわが國でも識 これに關する多くの論議がなざれ なかった。いづれの國においても 寒がうとすることがいはゆる知識 である。これに對する批判の途を ズムの重懸に抗争する憤激の叫び 上に弱く襲ひかとつてゐるファシ いて、小倉博士の言の如くすべて 偏重弊害論の直意である限りにお

ウエーク島、グアム島を網でマニ

ラへの定期航空を開始したことな

ては、改造、干月號における田邊元

搬して反科學主義を打破し、徹の

博士の『科學政策の矛盾』および

『中央公論』十一月號における小

ないことが論である。實に今日に 科學的精神の職場につとめばなら

リスのロンドンにおいてテレヴィ

である。さらに十一月にはイギ

でアメリカのクリッパー機はアラ 空を開始したこと、これと相並ん

トとニューヨークとの間の定期航 ンブルグ読が出來、フランクフル ドイツに世界最大の飛行船ヒンデ 最短時間の記録をつくつたこと、 脱が完成し、やがて大西洋横脈の 八萬トンの巨船クイーン・メリー 機橋に開通したこと、イギリスで サンフランシスコ・オークランド 全長十一キロ・メートルに達する

とも緊要なる問題とされればなら

らば、それは明かにわれくの頭 けにゆかない。一言にしていふな

メダからホノルル、ミドウエイ島

認めることは出來ないのであり、 もつとも深く憂へわばならないの かへつて一般者の知識缺乏をこそ おいてはわれくは知識偏重を

論語のみに止まらず、なんらかの 實践に移されればならないとさっ り、さらに今後においては単なる とは見られないほどに重要でもあ 多く論議ざれてもなほ決して冗言 あららか。この問題こそはいかに てなんの國家の簽達があり得るで である。正しい知識の増進を措い

考へられる。新らしい昭和十二年 うか、われくは刮目してこれを の計會が果していかに動くであら

検察することを思ってはならない 川完川